

弥生時代後期竪穴住居の研究（5）

弥生時代研究プロジェクトチーム

はじめに

今回は綾瀬市・大和市・海老名市・厚木市・伊勢原市・秦野市内における竪穴住居の集成と分析を行い、特徴の把握を行う。本稿では、上記分析対象地域を県央地域と呼称する。

今回の執筆・編集はプロジェクトメンバーによる検討結果に基づき、飯塚、渡辺、戸羽が行った。

県央地域における竪穴住居跡の特徴

帰属時期別住居軒数

帰属時期：県央地域で集成した竪穴住居跡は1141軒である。これらの帰属時期は後期：779軒、庄内併行期：126軒、中期後半～後期：21軒、中期後半～古墳時代前期：1軒、後期～古墳時代前期：22軒、不明：192軒である。分析の対象とした竪穴住居跡は時期不明を除いた軒数の大半を占める、後期および庄内併行期に帰属するものとした。

住居形態など

平面形態：後期779軒のうち最も多いのは隅丸（長）方形412軒で、次いで楕円形109軒、円形30軒、（長）方形61軒、不整形2軒である。平面形態不明のものは165軒である。このうち、短軸方向上に炉跡が存在する住居（短軸住居）が15軒（可能性があるもの7軒を含む）あり、海老名市河原口坊中遺跡（1次：5軒・2次：2軒）で7軒、同市本郷遺跡で3軒、同市中野桜野遺跡で2軒、綾瀬市神崎遺跡で2軒、海老名市社家宇治山遺跡で1軒が確認されている。

庄内併行期126軒のうち最も多いのは隅丸（長）方形74軒で、次いで（長）方形が32軒、楕円形5軒、円形3軒である。平面形態不明のものは12軒である。このうち短軸方向上に炉跡が存在する住居（短軸住居）が、3軒あり、海老名市河原口坊中遺跡（2次）で2軒、同市本郷遺跡で1軒が確認されている。

長短率：長短率は住居の長軸の数値を短軸の数値で除し、それに100を乗じたものである。値が大きくなれば、長軸短軸の差が大きくなり長方形に、小さくなれば正方形に近づき、最低の値は100となる（弥生時代研究プロジェクトチーム1995）。後期で算出できたのは143軒で、基本統計量は最大186.4、最小100.0、平均118.4、中央値114.2という値を示した。庄内併行期で算出できたのは49軒で、基本統計量は最大136.9、最小100.0、平均113.7、中央値112.9という値を示した。

方形指数：後期では149軒算出できた。方形指数10～20未満が22軒と最も多く、次いで20～30未満20軒、30～40未満20軒、60～70未満19軒、50～60未満18軒と続く。方形指数10～70未満の間に集中するが、突出した軒数となる区分ではなく、各方形指数区分において同程度の軒数が存在する。

庄内併行期では67軒で算出できた。方形指数40～50未満が17軒と最も多く、30～40未満9軒、70～80未満9軒、10～20未満7軒、20～30未満7軒、50～60未満7軒と続く。方形指数40～50未満が突出して多く、それに前後する指数10～40未満および50～80未満に分散する傾向が看取される。

主軸方位：北東方向（N-○°-E）および北西方向（N-○°-W）を0°～180°の間で角度を計測した後、10°ごとに住居軒数の集計を行ってグラフ化した。円が角度を、角度の軸が該当する住居の軒数を示している。90°

を超えるものは南方向に主軸を取る住居である。なお、グラフの構造上180°の軸に主軸方向170～180°未満の南東方向および南西方向の住居軒数が重複してしまうことから、今回は180°の軸を南東方向と南西方向の2軸にして軒数表示を行うこととした。

後期において北東方向を主軸とする住居は158軒ある。その内訳は、0～10°未満23軒、10～20°未満36軒、20～30°未満29軒、30～40°未満12軒、40～50°未満13軒、50～60°未満21軒、60～70°未満6軒、70～80°未満10軒、80～90°未満8軒と、0～30°未満および50～60°未満に集中して分布する。

南東方向を主軸とする住居は41軒ある。その内訳は、90°～100°未満9軒、100°～110°未満5軒、110～120°未満4軒、120～130°未満7軒、130～140°未満2軒、140～150°未満4軒、150～160°未満2軒、160～170°未満5軒、170～180°未満3軒である。41軒中、厚木市恩名沖原遺跡で39軒、海老名市河原口坊中遺跡（1次）で7軒が見つかっている。

北西方向を主軸とする住居は227軒ある。その内訳は、0°～10°未満18軒、10～20°未満13軒、20～30°未満25軒、30～40°未満33軒、40～50°未満33軒、50～60°未満23軒、60～70°未満18軒、70～80°未満42軒、80～90°未満22軒と20～60°未満、70～90°未満に集中して分布する。

南西方向を主軸とする住居は16軒ある。その内訳は、90°～100°未満6軒、100°～110°未満4軒、110～120°未満2軒、120～130°未満2軒、140～150°未満1軒、150～160°未満1軒、170～180°1軒である。16軒中、厚木市宮の里遺跡で11軒が見つかっている。

このほか、真北（0°）を主軸とするものが3軒存在する。

庄内併行期に北東方向を主軸とする住居は32軒ある。その内訳は、0°～10°未満7軒、10～20°未満5軒、20～30°未満9軒、30～40°未満5軒、40～50°未満3軒、60～70°未満2軒、70～80°未満1軒、と0～40°未満に集中する。

南東方向を主軸とする住居は13軒ある。その内訳は、90°～100°未満5軒、100°～110°未満1軒、110～120°未満3軒、120～130°未満1軒、130～140°未満1軒、170～180°2軒である。13軒中、厚木市恩名沖原遺跡で10軒が見つかっている。

北西方向を主軸とする住居は48軒ある。その内訳は0°～10°未満3軒、10～20°未満6軒、20～30°未満3軒、30～40°未満6軒、40～50°未満6軒、50～60°未満6軒、60～70°未満8軒、70～80°未満5軒、80～90°未満5軒と比較的各区分に分散する傾向が見られる。

南西方向を主軸とする住居は3軒ある。その内訳は、90°～100°未満1軒、150～160°未満1軒、170～180°1軒である。3軒とも海老名市本郷遺跡で見つかっている。

主柱穴：住居跡での主柱穴本数が確認できたものについて集計した。なお、軒数には柱穴配置により、本数が推定可能な遺構を含む。後期では304軒中、主柱穴4本の住居217軒で約71%、次いで主柱穴0本の住居76軒で約24%と主柱穴4本と0本のものが大きな割合を占める。主柱穴18本は厚木市恩名沖原遺跡Y42号住居跡の事例である。

庄内併行期では62軒中、主柱穴4本の住居が42軒で約68%、主柱穴0本の住居が9軒で約25%の割合を占める。後期と同様に主柱穴4本と0本の住居が大きな割合を占める。主柱穴12本のものは厚木市恩名沖原遺跡Y33号住居跡の事例である。

地形と立地

分布する地形面：後期では台地・丘陵の分布が主体であるが、住居軒数779軒のうち、372軒が自然堤防

上で確認されている。遺跡としては相模川左岸に位置する海老名市河原口坊中遺跡・同市中野桜野遺跡・同市社家宇治山遺跡が該当する。庄内併行期においても台地・丘陵の分布が主体であるが、126軒中、23軒が自然堤防上に分布している。遺跡としては海老名市河原口坊中遺跡・同市社家宇治山遺跡が該当する。

水系：後期では779軒中、相模川水系に372軒、玉川水系に192軒、目久尻川水系に117軒と分布する。このほか、戸張川水系40軒、恩曾川水系37軒、小鮎川水系11、歌川水系10軒である。庄内併行期では126軒中、目久尻川水系に26軒、相模川水系に23軒、戸張川水系に20軒、大根川水系に14軒と分布する。このほか、恩曾川水系12軒、渋田川水系12軒、境川水系10軒、引地川水系9軒である。

住居付帯施設

炉跡：後期では779軒中388軒で確認されている。その内訳は地床炉350軒、枕石炉31軒、枕粘土炉1軒、粘土板炉2軒、その他4軒である。その他は土器片炉3軒、土器片が敷かれた炉が1軒である。枕石炉が確認された主な遺跡として、海老名市本郷遺跡で12軒、同市河原口坊中遺跡（1次：7軒、2次：1軒、4次：3軒）で11軒、厚木市宮の里遺跡で3軒、同市恩名沖原遺跡で2軒が挙げられる。1つの住居跡に炉が2基以上存在する住居は25軒存在し、うち15軒が海老名市河原口坊中遺跡（1次：11軒、4次：4軒）で確認されている。

庄内併行期では126軒中64軒で確認されている。その内訳は地床炉50軒、枕石炉8軒、枕粘土炉1軒、粘土板炉1軒、その他4軒である。1つの住居跡に炉が2基以上存在する住居は2軒存在する。

入口穴・梯子穴：入口穴は後期に24軒、庄内併行期に9軒で確認されている。

貯蔵穴：後期に40軒で確認されている。そのうち周堤を有するものは7軒、複数基あるものは1軒である。海老名市本郷遺跡SK II 地区1号住居跡では壁際に大型の土坑が配されている。

庄内併行期には14軒確認されている。そのうち周堤を有するものは2軒で、複数基あるものは2軒確認されている。海老名市本郷遺跡SK II 地区9号住居跡では入り口側と奥壁側に貯蔵穴が確認されている。

周溝：後期で全周するものは77軒（9.9%）、部分的に存在するものは91軒（11.7%）、存在しないものは505軒（64.8%）、不明は106軒（13.6%）である。

庄内併行期で全周するものは28軒（22.2%）、部分的に存在するものは17軒（13.5%）、存在しないものは69軒（54.8%）、不明は12軒（9.5%）である。

住居廃絶など

拡張：後期で24軒が確認されている。主な遺跡として、厚木市宮の里遺跡で10軒、海老名市河原口坊中遺跡で5軒、同市本郷遺跡で3軒が挙げられる。綾瀬市神崎遺跡4号住居跡では2回の拡張が行われている。

庄内併行期では2軒確認されている。複数回の拡張が行われている住居跡は確認されていない。

焼失：後期では45軒あり、そのうち炭化物や焼土などが検出されているのは29軒である。主な遺跡として海老名市本郷遺跡29軒、同市河原口坊中遺跡（1次：11軒、2次：1軒、4次：3軒）15軒、厚木市恩名沖原遺跡4軒が挙げられる。

庄内併行期では14軒確認されており、炭化物や焼土などが検出されているのは13軒である。主な遺跡として、海老名市本郷遺跡4軒、大和市大塚戸遺跡3軒、同市県営高座渋谷団地内遺跡3軒が挙げられる。

出土遺物

遺物：出土遺物で主体となるのは土器類、石器類であるが、ここではそれ以外に特徴のある遺物を出土した住居跡と遺物名を列挙する。

後期：海老名市中野桜野遺跡1号住居址：凹石・軽石製品・剥片、同遺跡2号住居址：軽石製品、同遺跡3号住居址：凹石、同市河原口坊中遺跡（1次）P20地区YH28・P21地区YH29・30・P22地区YH39・48号竪穴建物址：ガラス玉、同遺跡P21地区YH2号竪穴建物址：鉄製品、同地区YH6・P22地区YH13号竪穴建物址：銅環、同地区YH8号竪穴建物址：銅環・ガラス玉、同遺跡P22地区YH4・56号竪穴建物址：銅鋤、同地区YH43号竪穴建物址：銅鏃、同遺跡（2次）3号住居址：小銅鐸、同遺跡70・127号住居址：ガラス玉、同市本郷遺跡KA地区7号住居跡：ミニチュア、同遺跡SKII地区25号住居跡：軽石製品、同遺跡SKIII地区2号住居跡：軽石製品、同遺跡SKV地区16号住居跡：管玉未製品、同遺跡RC地区19号住居跡：甌、同遺跡RC地区34号住居跡：炭化木製鉢、同遺跡RC地区71号住居跡：有頭石錘、厚木市宮の里遺跡34号住居址：ミニチュア、同遺跡77号住居址：管状土錘、同市119号住居址：銅鋤、同遺跡146号住居址：土錘？、同遺跡154号住居址：ガラス小玉、伊勢原市石田・大久保遺跡第2地点：台付鉢、綾瀬市神崎遺跡2号住居跡：土玉・銅鏃、同遺跡4号住居跡：凹石

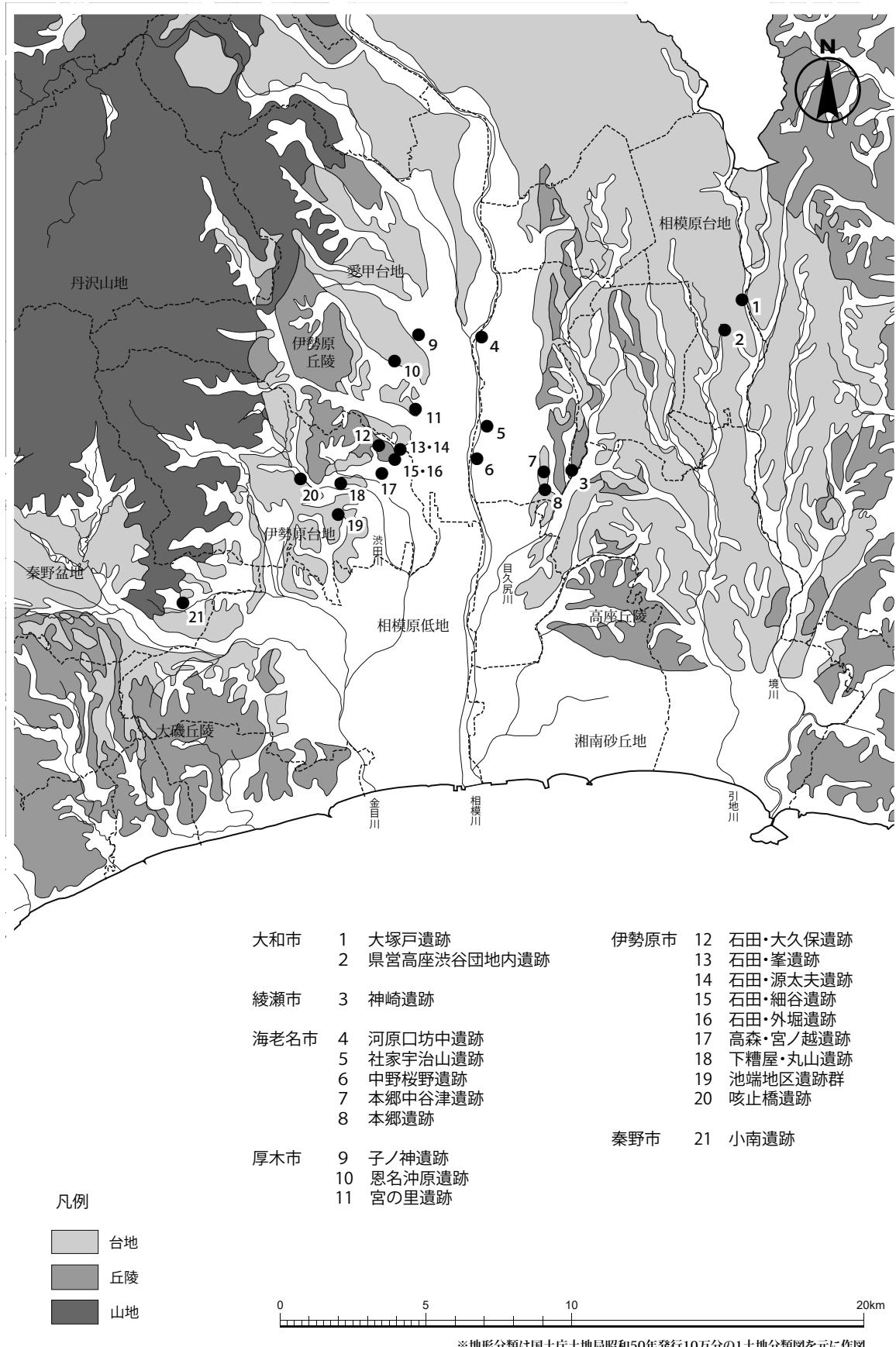
庄内併行期：海老名市河原口坊中遺跡（4次）26・35号竪穴建物址：銅環、同市本郷遺跡KA地区2号住居跡：ミニチュア・銅鏃、同遺跡SKII地区9号住居跡：軽石製品、同遺跡SKII地区16号住居跡：軽石製品・管玉未製品、同遺跡RC地区8・64号住居跡：ミニチュア、厚木市恩名沖原遺跡Y-34号住居跡：土製紡錘車、秦野市小南遺跡H1号住居跡：石鎌・石棒、同遺跡H36号住居跡：手焙り型土器、同遺跡H42号住居跡：甌、同遺跡H69号住居跡：ミニチュア

おわりに

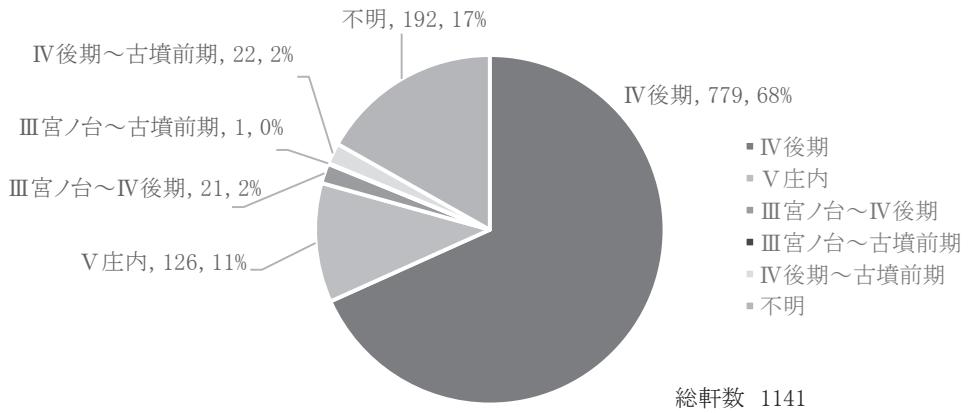
今回は綾瀬市・大和市・海老名市・厚木市・伊勢原市・秦野市内における竪穴住居の集成と分析を行った。今後も神奈川県内における竪穴住居のデータベースの作成作業を継続する。県内各地域または市町村ごとの分析を行ったのち、過去に行った集成のデータを含めて総合的な分析・比較を行う予定である。

第1表 対象遺跡一覧表

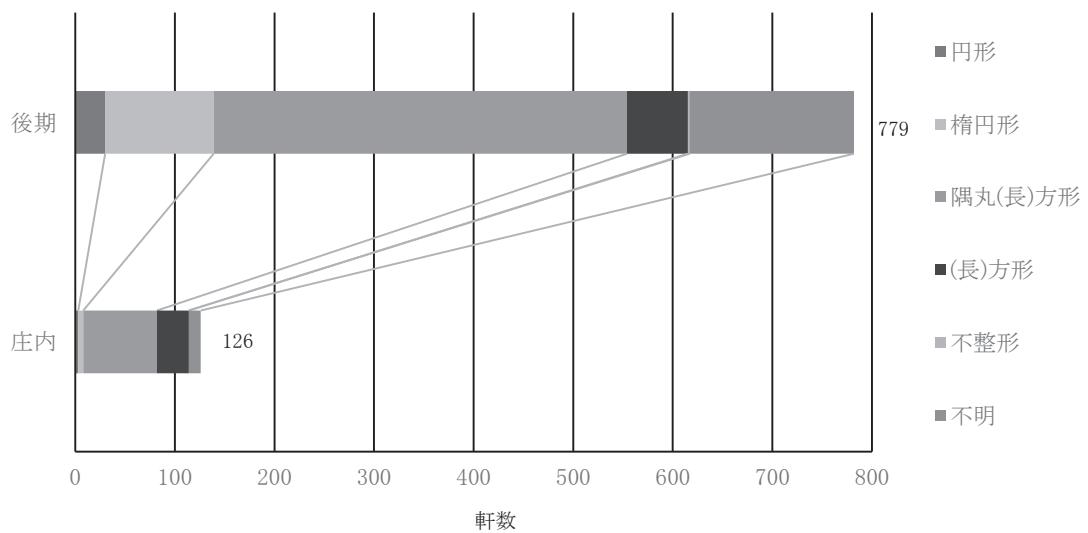
No.	市町	遺跡名	軒数	刊行団体	刊行年	出典
1	大和市	大塚戸遺跡	10	大和市教育委員会、大塚戸遺跡B地点発掘調査団	1994	『大塚戸遺跡』大和市文化財調査報告第60集
2		県営高座渋谷団地内遺跡	9	県営高座渋谷団地内遺跡発掘調査団	1995	『県営高座渋谷団地内遺跡』
3		神崎遺跡	6	綾瀬市教育委員会	2010	『神崎遺跡範囲確認調査報告書』綾瀬市埋蔵文化財調査報告7
4	海老名市	河原口坊中遺跡	67	公益財団法人かながわ考古学財団	2014	『河原口坊中遺跡第4次調査』かながわ考古学財団調査報告300
5			228	公益財団法人かながわ考古学財団	2014	『河原口坊中遺跡第1次調査』かながわ考古学財団調査報告304
6			77	公益財団法人かながわ考古学財団	2015	『河原口坊中遺跡第2次調査』かながわ考古学財団調査報告307
7		本郷中谷津遺跡	67	公益財団法人かながわ考古学財団	2011	『社家宇治山遺跡』かながわ考古学財団調査報告264
8			59	公益財団法人かながわ考古学財団	2009	『中野桜野遺跡』かながわ考古学財団調査報告231
9			1	株式会社盤古堂	2011	『神奈川県海老名市 本郷中谷津遺跡 第16次調査』
10			216	富士ゼロックス株式会社、本郷遺跡調査団	1995	『海老名本郷X』
11			7	富士ゼロックス株式会社、本郷遺跡調査団	1996	『海老名本郷 XIV』
12	伊勢原市	石田・大久保遺跡	26	富士ゼロックス株式会社、本郷遺跡調査団	1998	『海老名本郷 V』
13			11	厚木市教育委員会、子ノ神遺跡調査団	1998	『子ノ神(IV)』
14		石田・源太夫遺跡	49	恩名沖原遺跡発掘調査団	2000	『恩名沖原遺跡発掘調査報告書』
15			192	厚木市教育委員会、玉川文化財研究所	2005	『宮の里遺跡発掘調査報告書』
16			17	鎌倉遺跡調査会、石田・大久保遺跡第2地点発掘調査団	2003	『神奈川県伊勢原市 石田・大久保遺跡第2地点』
17		石田・峯遺跡	20	玉川文化財研究所	2004	『石田・峯遺跡第II・III地点 発掘調査報告書』
18			7	玉川文化財研究所	2005	『石田・峯遺跡第IV地点 発掘調査報告書』
19		石田・源太夫遺跡	3	伊勢原市石田・源太夫遺跡第5地点発掘調査会	2003	『神奈川県伊勢原市 石田・源太夫第5地点』
20			2	株式会社盤古堂	2007	『神奈川県伊勢原市 石田・源太夫遺跡第VI地点』
21	秦野市	小南遺跡	1	国際文化財株式会社	2012	『石田・細谷遺跡 第6地点』
22	下糟屋・丸山遺跡	10	有限会社鎌倉遺跡調査会	2006	『伊勢原市石田・外堀遺跡第2地点発掘調査報告書』	
23		高森・宮ノ越遺跡	4	株式会社玉川文化財研究所	2001	『いせはらの遺跡 II 高森・宮ノ越遺跡』
24			6	株式会社A-one・フィールドワークシステム	2007	『高森・宮ノ越遺跡第二次調査発掘調査報告書』
25	池端地区(遺跡群)	7	財団法人かながわ考古学財団	2010	『下糟屋・丸山遺跡(第6地点)』かながわ考古学財団調査報告260	
26		4	伊勢原市N-128遺跡調査団	1998	『咳止橋遺跡』	
27	秦野市	小南遺跡	14	財団法人かながわ考古学財団	1997	『小南遺跡(N-28) 東北久保・鳥居松遺跡(N-29)』かながわ考古学財団調査報告23



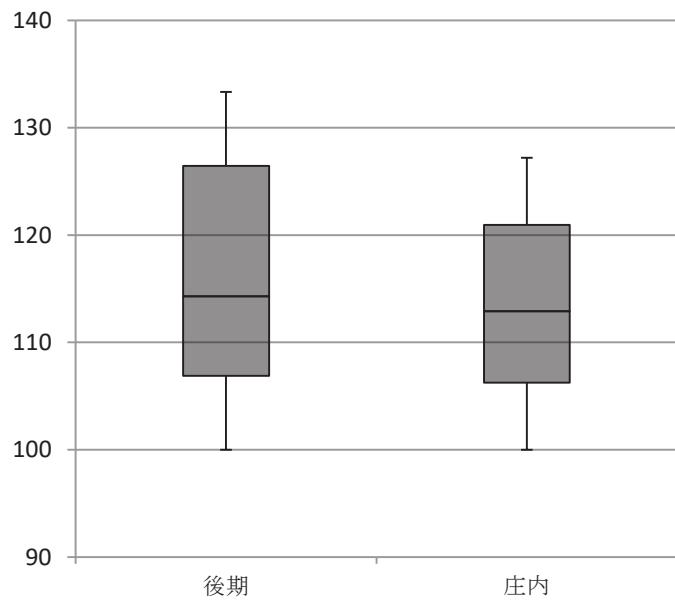
第1図 対象遺跡分布図



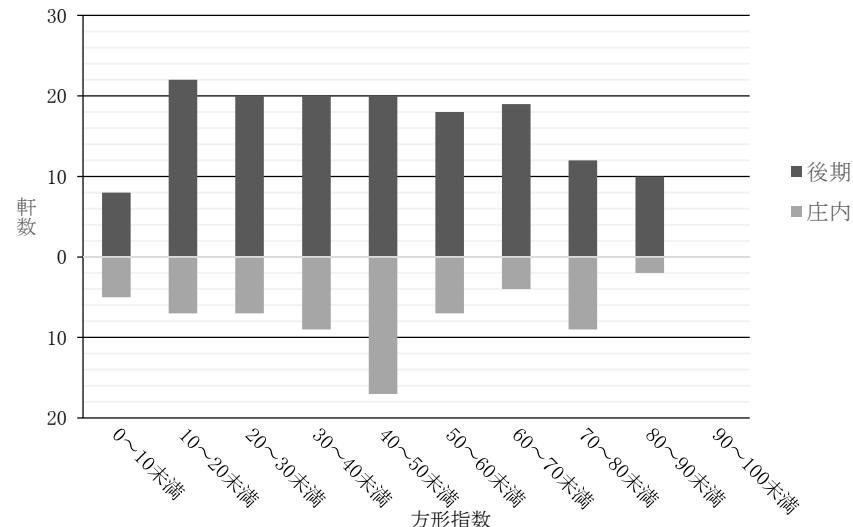
第2図 時期別住居軒数



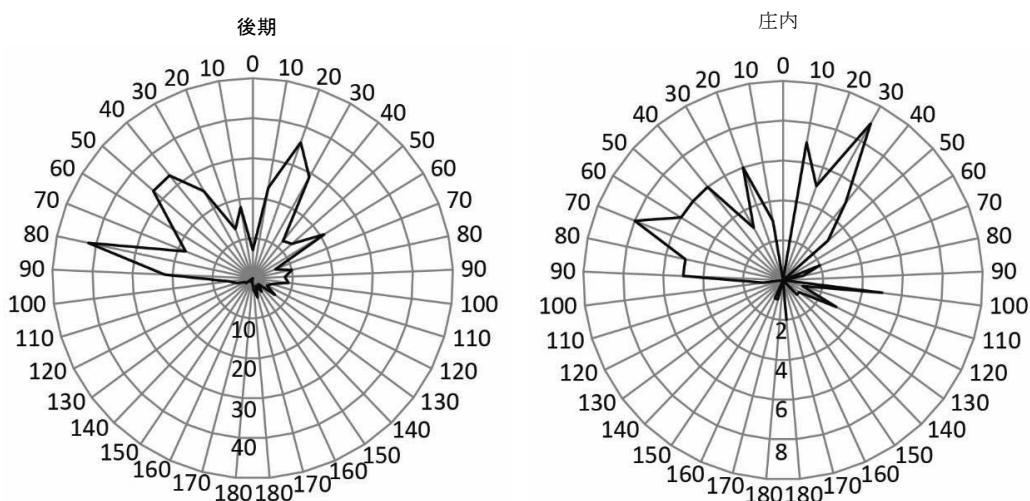
第3図 住居平面形態



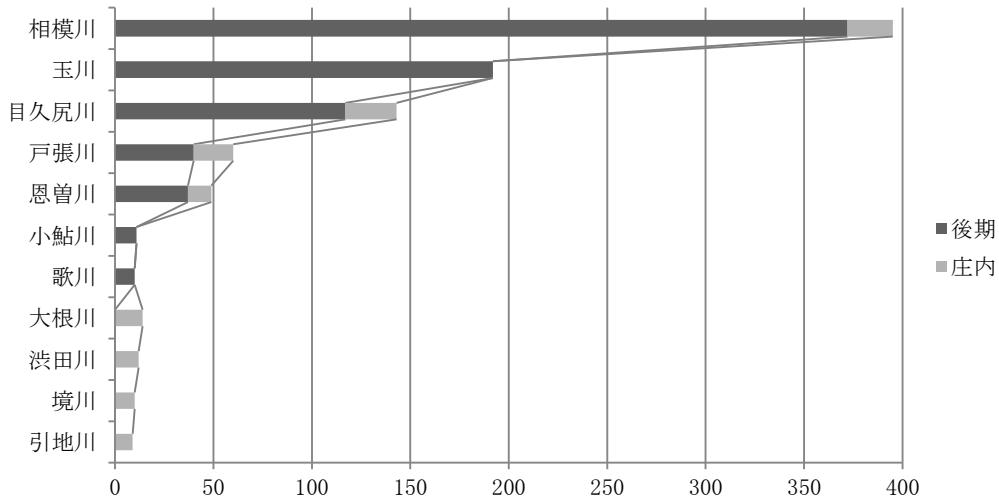
第4図 長短率



第5図 方形指数分布



第6図 主軸方位分布



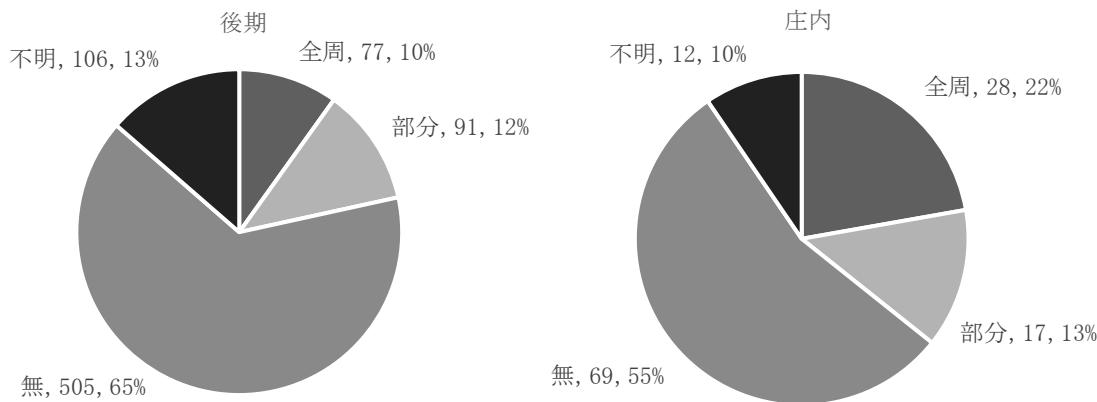
第7図 水系別住居軒数

第2表 炉跡形態

	種別	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)
後期	地床炉	350	90.2	44.9
	枕石炉	31	8.0	4.0
	枕粘土炉	1	0.3	0.1
	粘土板炉	2	0.5	0.3
	その他	4	1.0	0.5
	小計	388	100.0	49.8
庄内	種別	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)
	地床炉	50	78.1	39.7
	枕石炉	8	12.5	6.3
	枕粘土炉	1	1.6	0.8
	粘土板炉	1	1.6	0.8
	その他	4	6.3	3.2
	小計	64	100.0	50.8

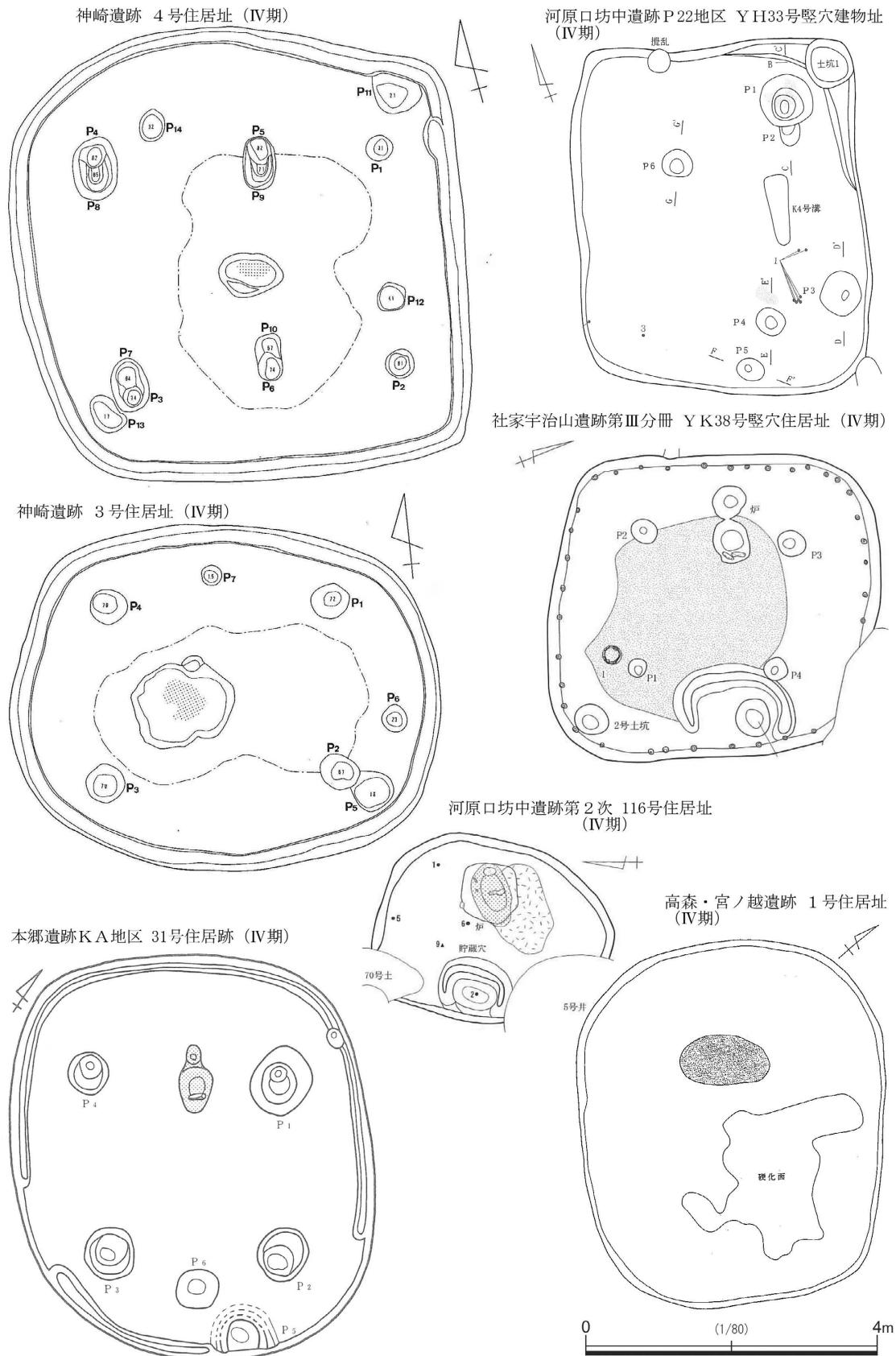
第3表 主柱穴本数

	主柱穴数	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)
後期	0本	74	24.3	9.5
	1本	2	0.7	0.3
	2本	4	1.3	0.5
	3本	1	0.3	0.1
	4本	217	71.4	27.9
	5本	4	1.3	0.5
	6本	1	0.3	0.1
	18本	1	0.3	0.1
	小計	304	100.0	
庄内	主柱穴数	軒数	割合(%)	確認数/住居総軒数(%)
	0本	15	24.2	11.9
	1本	1	1.6	0.8
	2本	1	1.6	0.8
	3本	2	3.2	1.6
	4本	42	67.7	33.3
	12本	1	1.6	0.8
	小計	62	100.0	



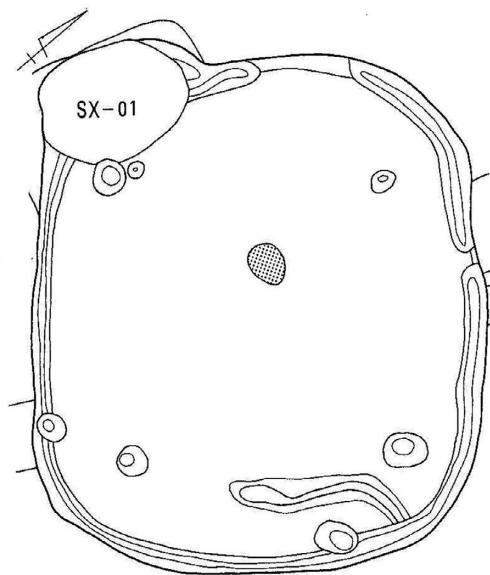
第8図 周溝の有無

弥生時代後期堅穴住居の研究（5）

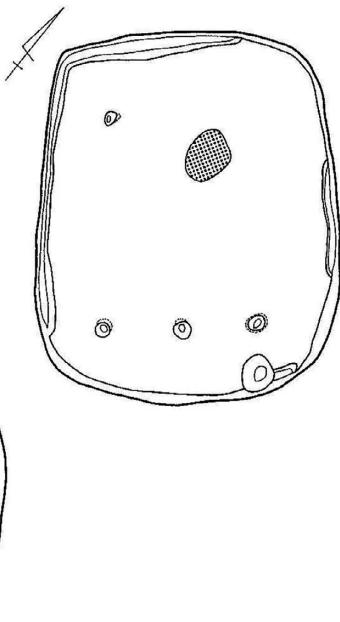


第9図 堅穴住跡平面図 (1)

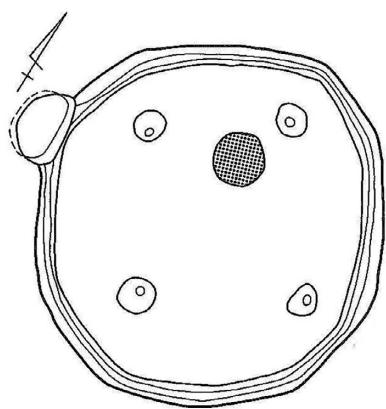
大塚戸遺跡 第3号住居址（V期）



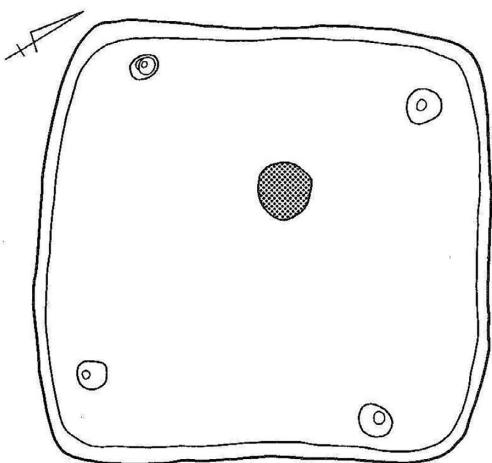
大塚戸遺跡 第12号住居址（V期）



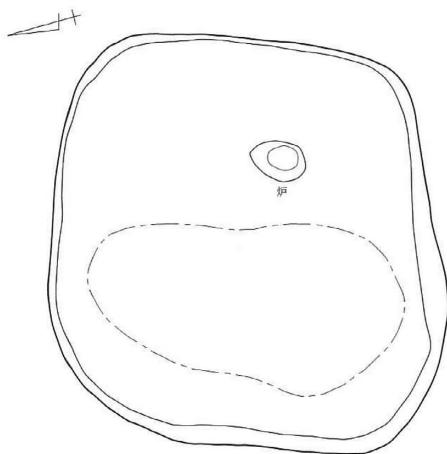
県営高座渋谷団地内遺跡 第5号住居址（V期）



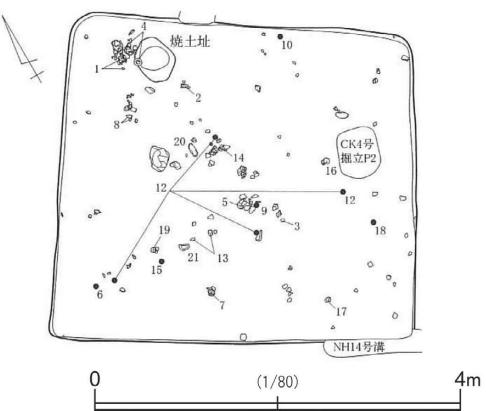
県営高座渋谷団地内遺跡 第2号住居址（V期）



河原口坊中遺跡第2次 43号住居址（V期）



社家宇治山遺跡第I分冊 YK25号竪穴住居址（V期）



第10図 竪穴住居跡平面図（2）